

「国語」（聞いてやってみよう）学習指導案

1. 日時 令和7年9月17日（水） 第2時限（10:00～10:40）
2. 場所 小学部第6学年 2組教室
3. 学部・学年・組 小学部 第5学年 1人 第6学年 2人
4. 単元（題材）名 「聞いてやってみよう」
5. 単元（題材）目標
 - ・教員の言葉を聞いて、それが示すものの名前を理解し、選択肢の中から適切なものを選ぶことができるようにする。【知識及び技能】
 - ・教員の言葉によるシンプルな教示を聞いて行動できるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
 - ・教員や友だちに思いを伝えようとする意欲を育てる。【学びに向かう力、人間性等】

6. 児童観 【略】

7. 教材観

本単元では、聞き取る力の育成に取り組む。本グループの児童は、聞き取りに関しては、「立ちましよう」や「筆箱を持って来てください」など聞き馴染みのある簡単な言葉は理解して行動できるものの、聞いたことを短期的に記憶に保持して考えることが難しい。物の名前を理解することはできるが、一度に複数の物の名前を聞くと記憶できなくなったり、聞き馴染みのない果物や野菜の名称を知らなかったり、かごに入れる作業をしているうちに聞き取ったことを忘れたりするなどの様子が見られる。「〇〇を取って来てください」の言葉を聞いて行動することはできるため、2つ以上の物の名前を聞いて覚え、それに合った行動ができるようにするために、引き続き野菜や果物の模型を用いた学習に取り組んでいきたい。

これまで、本グループでは、『おつかいごっこ』に取り組んできた。『おつかいごっこ』は、買い物という日常的な場面を模した活動で、児童にとってイメージしやすく手に取りながら考えやすい教材である。また、言葉と実物の結びつきが明確で、聞いた言葉を実際の行動に移しやすく、言葉理解やコミュニケーションの力を育てやすい。児童の実態に応じて伝えるものの数を調節したり、伝える言葉の内容を調整したりすることもできる。興味のある教材を用いることで、教員の言葉に意識を向けたり、友だちと一緒に楽しみながら取り組んだりできると考える。

本単元では、引き続き果物や野菜の模型を使用し、教員の言葉を聞いて行動する活動に取り組む。本グループの児童は「対人関係」を課題とするため、児童には教員だけではなく友だちとの関わりを増やししながら、児童の興味のある素材を用いて、楽しみながら学習に取り組んでほしい。

8. 指導観

本授業は、これまでの授業進行（はじめのあいさつ、名前呼び、運筆活動、言語理解）と同様に進める。「対人関係」を課題とする児童が多いが、1人は友だちに関わる様子が比較的に見られるため、その児童を真ん中に挟んだ形で座席を配置する。また、教員が1人ということもあり、座席配置を楕円形のようにみんなが向き合う形にして簡単な言葉かけで注目できるようにする。全体指示で動くことができるように、繰り返し取り組んだり簡単な言葉にジェスチャーも併せて提示したりするようにする。そして、本グループはどの活動においても、終わった後は「できました」と報告する練習にも取り組んできたため、引き続き促していく。

単元の導入として行う運筆活動では、児童が好きな果物や野菜の名前を書くことで、文字を書くことの楽しさを味わい、自分の思いを文字に表す経験を積むとともに、次の学習への見通しをもつことができるようにする。第二次では、友だちに自分の好きなものを取ってきてもらう活動に発展させることで、児童は自分の選択が学習に反映される喜びを感じながら友だちとのやり取りの中で主体的に学習に取り組むことができると考える。

第一次の指導では、「〇を△に入れてください」等のように伝えられた2つの言葉による内容を聞いて行動する活動を行う。言葉とそれに合ったイラストや写真をモニターに映し、徐々にヒントとなる視覚支援を減らしていく。視覚支援を減らしたのち、児童によっては「いちごを青いバケツ」などシンプ

ルな言葉かけにして、伝える言葉の量を減らして児童が音声言語のみで正しく理解し、行動できるようにしていきたい。また、果物や野菜の模型の提示数を調整し、少ない選択肢の中から選ぶようにすることで成功体験を増やすようにする。そして、話し手に注目できるよう、視線を合わせ、ゆっくり丁寧に伝えるようにすることで「聞く」力を育んでいきたい。行動ができれば称賛し、「できた」と達成感を感じられるようにし、学習意欲の向上につなげていきたい。

第二次では、伝えられた2つの内容を聞いて行動するだけでなく、友だちに渡す活動や「〇〇さん、どうぞ」「ありがとう」といったやり取りをフレーズで言えるようにしていくことで、一緒に活動する友だちへの意識も広げていきたい。聞き取る言葉が増えても第一次と同様に、できるだけシンプルな言葉かけにして言葉の理解と記憶の保持につなげていきたい。ここまでを一区切りとし、行動を称賛することで達成感をもつことができるようにする。その後、友だちに渡す活動へとつなげることで、児童が段階的に言葉を理解し、行動に移していくようにしていきたい。また、個々に応じて内容を3つに増やしたり内容を発展させたりし、より複雑な聞き取りにも取り組めるようにしていきたい。この授業を通して、生活の中での自立や人と関わるきっかけになったり、友だちとのやり取りをすることの楽しさを感じたりしてほしい。

9. 単元（題材）の評価規準

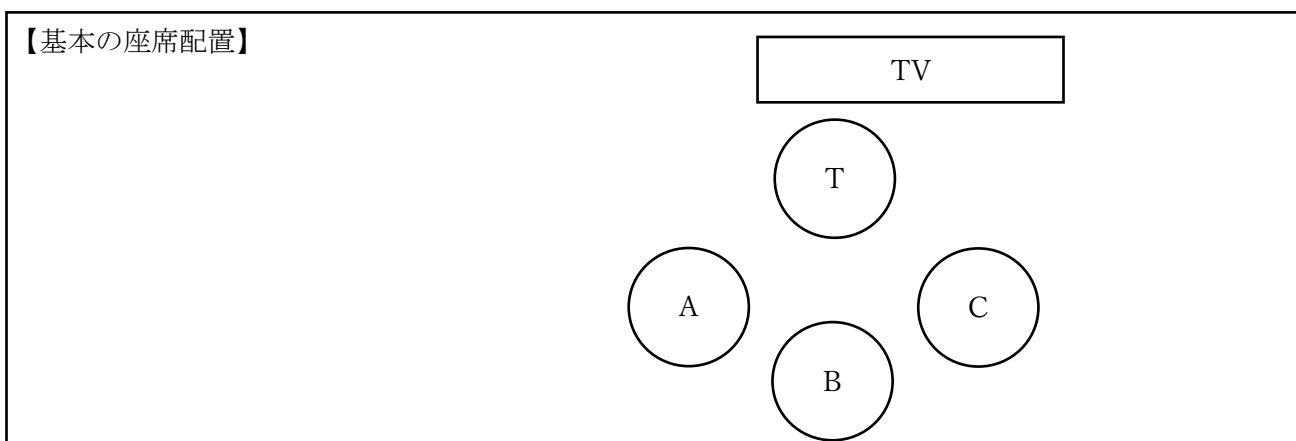
A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 教員の言葉を聞き取り、どの具体物が対応するのかを考えて選ぶことができる。	① 教員の言葉に注目し、野菜や果物の名前の言葉を理解することができる。	① 自分の記入したものや選んだものを、見せたり渡したりして伝えようとしている。
② 自分で選んだものを、指定された場所に入れたり相手に渡したりすることができる。	② 繰り返しの中で、「入れる」「渡す」等の言葉に応じて行動することができる。	② 友だちの動きを見たり言葉を聞いたりしようとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全7時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1 ～ 3	・好きなものを書いて伝えよう ・聞いてやってみよう	・自分の名前と好きな果物または野菜を1つ選び、プリントに記入する。 ・言葉で伝える。 ・伝えられた2つの内容を聞いて行動する。 例「○をとって△に入れてください」	・果物や野菜の模型を用意する。 ・視写できるように枠の横に文字を書く。 ・なぞり書きができるように、点線を書く。 ・記入したものだけではなく、文で伝えるように文字を指して読むように促す。 ・友だちが伝えた内容をモニターに提示する。	C①② A①② B①② C①
2	4 ～ 7	・好きなものを書いて伝えよう	・自分の名前と好きな果物または野菜を1つ選び、プリントに記入する。 ・言葉で伝える。	・果物や野菜の模型を用意する。 ・視写できるように枠の横に文字を書く。 ・なぞり書きができるように、点線を書く。 ・記入したものだけではなく、文で伝えるように文字を指して読むように促す。 ・友だちが伝えた内容をモニターに提示する。	C①②

	・言葉で伝える。	・視写できるように枠の横に文字を書く。 ・なぞり書きができるように、点線を書く。 ・一人で名前を書くことができるように、段ボールで文字の形をくり抜いた型を用意する。 ・記入したものだけではなく、文章で伝えるように文字を指して読むように促す。 ・友だちが伝えた内容をモニターに提示して視覚支援する。	C①②
20分 展開	○おつかいごっこ ・伝えられた2～3つの言葉を聞いて、指定された友だちに渡す。 例「○を△に入れて□に渡してください」 ・受け取った児童は「ありがとう」を伝える。	・果物や野菜の模型、さまざまな色のバケツを用意する。 ・まずは文字やイラスト等を提示し、視覚支援しながら教員の手本を見るように促す。 ・教員の言葉に注目できるよう、児童の近くでゆっくり丁寧に発音して伝えるようにする。 ・「○を△に入れる」で一度区切り、称賛したのち友だちに渡すように促す。 ・友だちに渡す際は「○○さん、どうぞ」とやり取りができるように、最初の文字を伝えたり写真や文字を提示したりする。 ・「あ…？」と最初の文字を伝え、やり取りができるようにする。 ・できたら称賛する。	A①② B①② C① C②
5分 まとめ	○振り返り ・できた内容（カード）を選び、みんなの前で伝える。 ○おわりのあいさつ ・前に出てあいさつをする。	・活動内容のカードを準備する。 ・カードを選択した後に「わたしは○○ができました」の定型文に合わせて読むように促す。 ・姿勢を正し、あいさつする人に注目できるような言葉かけを行う。	C①② C②

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



【おつかいごっこの配置】

